

経営比較分析表（平成29年度決算）

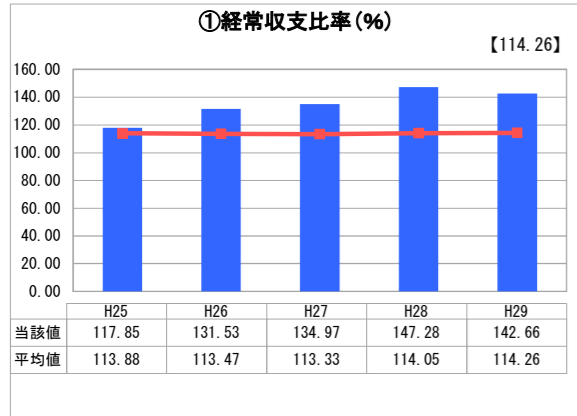
群馬県

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.09	98.41	0	

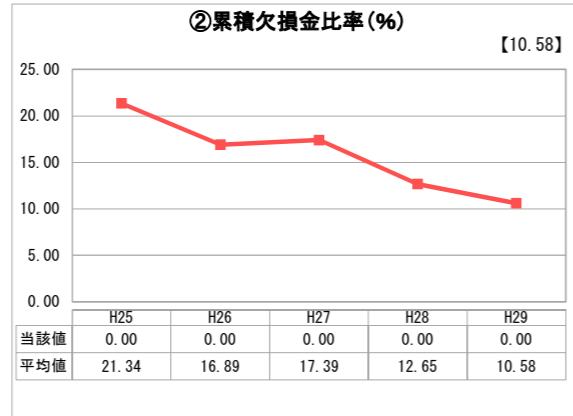
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,990,584	6,362.28	312.87
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,601,483	2,098.20	763.27

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

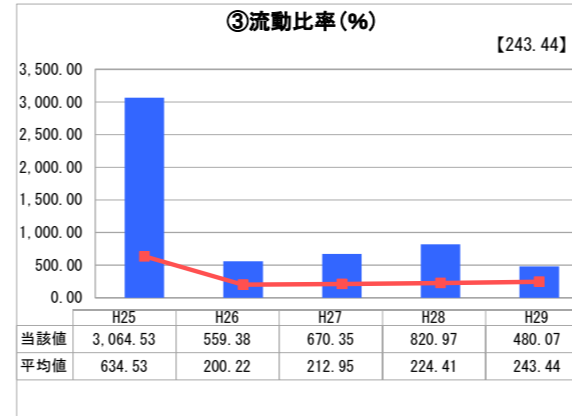
1. 経営の健全性・効率性



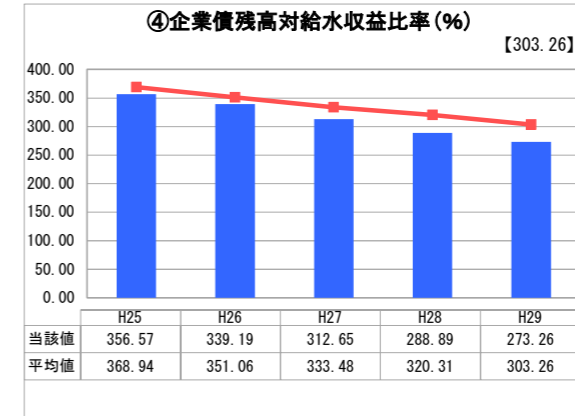
「経常損益」



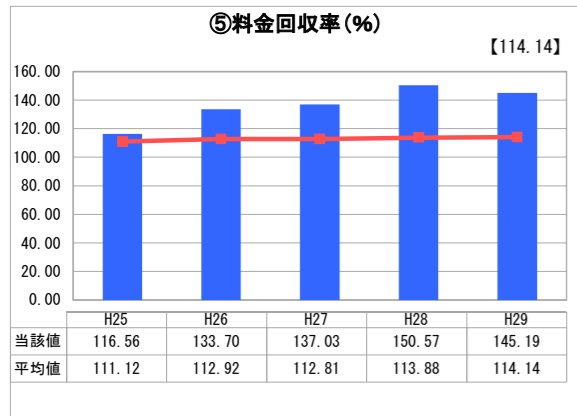
「累積欠損」



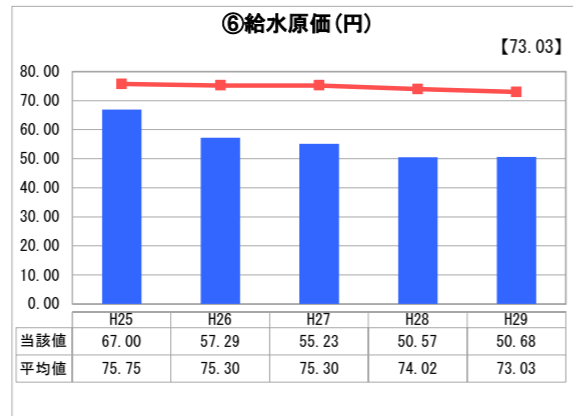
「支払能力」



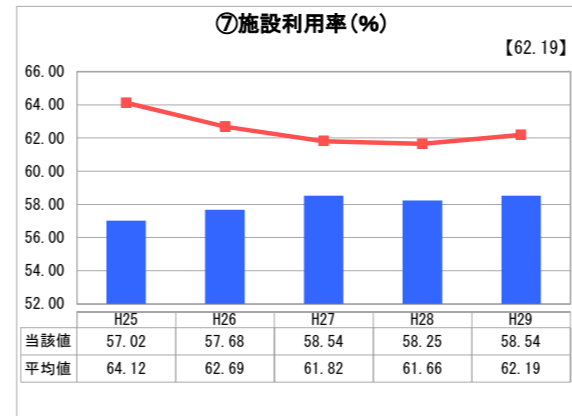
「債務残高」



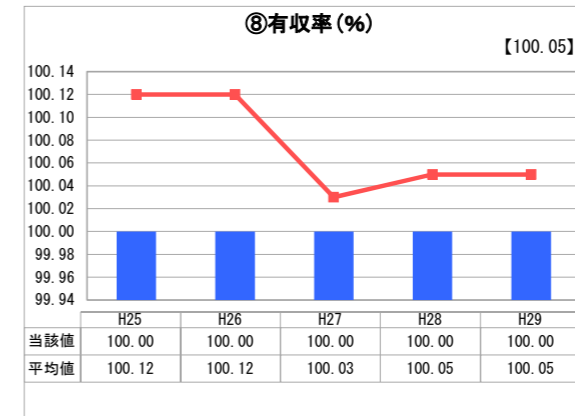
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

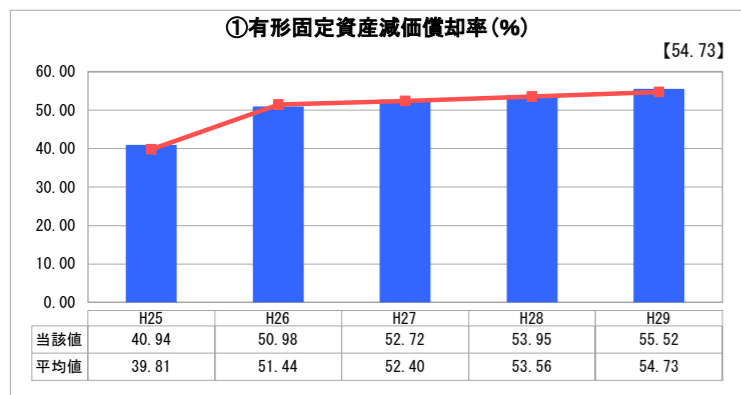


「施設の効率性」

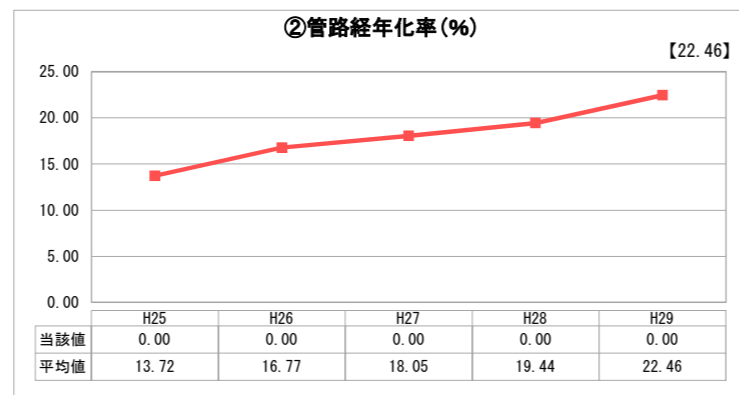


「供給した配水量の効率性」

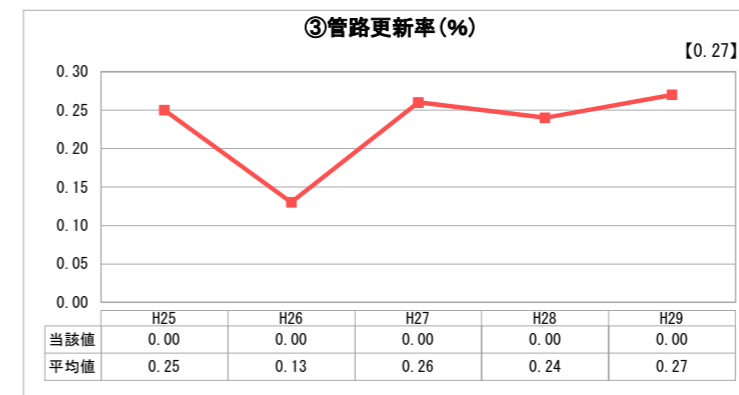
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、料金単価の引下げによる減収に加え、委託料や動力費などの経費が増加した結果、前年度と比較して低下したものの、100%を超える水準を維持している。また、累積欠損金も発生していないため「②累積欠損金比率」は0%であり、健全経営を維持している。

「③流動比率」は、未払金の増などにより前年度と比較して低下しているものの、平均値と比べても高い水準にあり、十分な支払能力を確保している。

「④企業債残高対給水収益比率」は、料金単価の引下げによる減収の影響があるものの償還が進み着実に改善している。

「⑦施設利用率」は平均値を下回っているが、「⑤料金回収率」は平均値を超える水準で推移し、料金回収はできており、経営の効率性は確保されている。

「⑧有収率」は100%であり、施設の稼働状況が全て収益に反映されている。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、平均値と同水準であるが、比率は増加傾向にあるため、計画的な修繕・更新・改良工事を実施し、設備機能の維持を図る必要がある。

「②管路経年化率」及び「③管路更新率」は、給水開始年が昭和58年以降であり法定耐用年数（40年）を経過した管路が存在しないため、0%で推移している。管路の大規模な更新を要する時期には至っていないが、将来に向けて、今後の適正な施設規模についての検討、更新時期やコストについての検討などを行う必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性は良好な状況で推移している。また、企業債等の償還も進み、財政的にも健全に推移している。

水道事業は受水団体へ水道用水を卸供給しているため、水需要の変化なども考慮しながら、今後とも受水団体と連携し、健全経営を図っていくとともに、将来の更新に備え準備していく必要がある。

また、受水団体との給水量及び料金に関する協議を進める中で、給水料金低減要望に応えるためにも給水量の維持確保が必要であることを理解してもらえよう努めていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。